

# 予算決算審査委員会 総務産業分科会報告書

平成26年9月17日

備前市議会議長 田 口 健 作 殿

総務産業分科会  
主査 田 原 隆 雄

平成26年9月17日に分科会を開催し、次の議案を審査したので議事録を添えて報告する。

## 記

案 件	備 考
議案第69号 平成26年度備前市一般会計補正予算(第2号)中、 総務産業分科会所管部分	—



《 分科会記録目次 》

招集日時・出席委員等	1
開会	2
市長室・総合政策部関係の審査	2
まちづくり部関係の審査	24
閉会	36



# 予算決算審査委員会 総務産業分科会記録

招集日時	平成26年9月17日（水）	総務産業委員会休憩中		
開議・閉議	午前11時04分	開会　～	午後3時11分	閉会
場所・形態	委員会室A・B	会期中（第4回定例会）の開催		
出席委員	委員長	田原隆雄	副委員長	川崎輝通
	委員	山本恒道		尾川直行
		掛谷　繁		西上徳一
		山本　成		
欠席委員	なし			
遅参委員	なし			
早退委員	なし			
列席者等	議長	田口健作		
傍聴者	議員	守井秀龍	津島　誠	立川　茂
		石原和人	森本洋子	星野和也
	報道	山陽新聞	朝日新聞	
	一般	なし		
説明員	市長室長	谷本隆二	政策監	中島和久
	秘書調整課長	藤田政宣	危機管理課長	大岩伸喜
	総合政策部長	藤原一徳	財政課長	佐藤行弘
	まちづくり部長	高橋昌弘	政策監	植田明彦
	産業振興課長	丸尾勇司	シカ・イノシシ課長	松山忠義
	まち営業課長	下山　晃	まち整備課長	坂本基道
	まち計画課長	平田惣己治	水道課長	梶藤　勲
	下水道課長	藤森　亨		
	日生総合支所長	星尾靖行	吉永総合支所長	森本和成
審査記録	次のとおり			

午前11時04分 開会

○田原主査 本日の出席は全員であります。定足数に達しておりますので、これより予算決算審査委員会総務産業分科会を開会いたします。

まず、議案第69号の審査に入りたいと思います。

\*\*\*\*\* 市長室・総合政策部等関係 \*\*\*\*\*

5ページ、ICT街づくり実証実験業務委託料200万円、6ページの地方債補正について、順次質疑があればお受けしたいと思います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

なければ、10ページ、歳入から行います。

地方特例交付金、地方交付税、国庫補助金で何かございませんか。

○掛谷委員 11ページ、社会保障・税番号システム整備費補助金、これはマイナンバー制移行のためのシステム改修ではないかと思いますが、819万円入ってきております。どういうふう  
に補助金が入って、今後どういうスケジュールで行われるのか、整備状況等教えてください。

○藤田秘書調整課長 当初の額に1,161万円がございしますが、これにつきましては、総務省関係の住民基本台帳システム、地方税システムの関係の予算を計上させていただいております。それ以降、厚生労働省関係の経費になりますが、社会保障関係につきまして、この補正予算で計上させていただきまして、精査した結果、プラス819万円となったものでございます。

○掛谷委員 よく言われるマイナンバー制度との絡みはないんですね。

○藤田秘書調整課長 マイナンバー制度のことです。

○田原主査 歳入のほうでほかにはございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

歳出に入ります。

まず、18、19ページ、総務費、総務管理費、いかがでしょうか。

○尾川委員 19ページの企画費の委託料、ICTまちづくり実証実験業務委託料、説明書へちょっと書いとるけど、どうもタブレットと一緒に、イメージが全然わからないんですけど、詳しい説明書はないんですか。

○藤田秘書調整課長 お手元にICT街づくり事業実証実験という資料を提出させていただいております。この資料に沿って説明させていただきます。

目的といたしましては、ICTを活用し、防災・行政情報や生活支援情報などを市民に配信するためにプッシュ配信型自治体アプリを作成し、平成26年度から実証実験をいたしまして、タブレット端末を市民に配ると。御協力いただく市民の方にお配りして、御協力いただくと。それから、アプリの効果や運用面の問題点を検証し、実用化に役立てるというものでございます。

アプリの主な機能でございますが、1番にありますように、情報配信機能といたしまして、利用者に対して行政側から情報をプッシュ配信するものでございます。それにつきましては、地域別、現住所別、性別等、グルーピングにしまして配信をしていきたいと考えております。それか

ら、2番では、利用者の情報を登録していただく。3番では、アンケート機能を持たせると。アンケート機能を持たせましたことで、いろんな御意見を回収及び集計していきたいと思っております。4番のナビゲーション機能につきましては、コンテンツと端末のGPS機能を連動させた検索機能、ナビゲーション機能を有するものにしたいということでございます。

端末につきましては、アンドロイド、iOSのタブレットを考えております。

それから、実証実験用の台数ですけれど、300台を考えております。

タブレットの配布の対象といたしましては、防災情報を中心に考えておりますので、消防団員、民生委員、区長さん、それから議員の皆様方にも御協力いただきたいと考えております。

実証実験での運用想定でございますが、1番、プッシュ配信型アプリの作成でございます。備前市用にカスタマイズをしたり、作り込みをしたりといった、アプリを作成しまして、防災情報、それから福祉情報、行政情報等をスピーディーにプッシュ配信できるようにしたいということでございます。

アプリの検証ですけれども、お配りして御協力いただいたモニターの皆様方にアンケート機能を用いて意見を回収したいということでございます。具体的には、そちらに書いてありますとおり、防災情報に位置情報を付加するなどして、消防団、区長等に配信したり、振り込め詐欺情報を区長や民生委員等に配信ということでございます。アプリの充実につきまして、回収した意見をもとにふぐあいや問題点の解消、機能強化など、実用化に向けたアプリの充実を図るというものでございます。

事業イメージとしましては、次のページに書かれておりますが、まず、タブレットを調達いたします。それから、通信事業者からのSIMカードの調達でございます。それから、通信のアプリケーション、アプリと呼ばれるものの調達もあります。下に行きまして、簡易マニュアル、使用講習に御協力いただく方々に対しましてマニュアルとか講習会を開催します。それから、キッキング・アプリの実装といったような、端末IDと所有者のひもづけをいたしまして、配布をいたしますということでございます。

右側でございますが、情報管理、配信システムの整備でございます。こちらが行政側ということになります。こちらから配信をするということになります。

そのタブレットの画面のイメージが次のページにありますけれど、備前市アプリ運用イメージということで、管理者がメッセージを配信というところが備前市になりますが、こちらから、天気とか、もちろん防災情報も流れるようになりまして、「広報びぜん」といったり、緊急避難情報といったものが、プッシュ型ですので、画面にポップアップされて出てくるというようなことになります。大体こういった事業内容でございます。

**○尾川委員** 協力していただける方というのは、どういう判別というんですかね、要するに意向調査というのはどういう目的ですか。それから、総事業費がどのくらいになっているのか。今説明を受けて、広報なんか配るわけでしょう。それをまたタブレットで知らせる必要が、タブレットを買うたら、その分を入れたってそんなに金はかからん、手間暇はかからんという判断でしょ

うが、インターネット、備前市のホームページに出てくるし、これにも出てくるし、いろんな情報伝達手段があってしかるべきですけど、その辺ある程度集中していくという考え方はなかったのか、いろいろ質問したんですが、要するに協力できんと言うたら、どうするんですか。

○藤田秘書調整課長 一応配布対象の案でございますが、消防団員、全団員ですね、1,056人ほどおられます。それから、民生児童委員が131人、区長会、全区長といいますと188人、議員の皆様が16人、あとPTA関係ですね、それから一番素早い情報を受信したい自主防災組織の皆さん、区長と重なるかもしれませんが、そういった方々、4,000人ぐらいおられますので、全ての方というわけにはいきませんが、役職ですね、役員の方といったところにぜひ御協力いただきたいと、こちらから強くお願いしたいと思っております。

○尾川委員 4,000人おって、あるところへ集中して行って、情報の偏りというものと、それから、教育用のタブレットも一緒に、現場の民生委員とか区長とか議員とか、どういうアタックをして、どういう反応があったとか、それが意向調査かどうか知らんですけどね、決める前にこういう構想でこういうふうやっていくとかというふうな。教育用タブレットでも、いまだにぐじゃぐじゃ言よんのは、現場の先生とか、本当に必要かどうかという、いろいろ錯綜しとるといふか、混乱しとるわけです。この実証実験、防災情報のタブレットにしても、少し時間をかけて、その辺の情報をとって、区長に聞いたかどうか知らんですよ。区長でも、こう言っちゃあ失礼ですけど、高齢者と若手の人とえば、高齢者が大体多いですけど、そういう人にその機器を持って対応してくれという負担をかけて、本当にいいのかどうかという感じはあるし、その辺はどなんですか。

○藤田秘書調整課長 あくまでも実証実験でございますが、まずどういった運用ができるか、どういった御協力をいただけるかというところでございますので、これから意向調査をしながら、できるだけ御協力いただけるようお願いしていきたくと思っております。

○尾川委員 問題のアプローチの方法ですけどね、ある程度こういうのをやると自治体があると思うんです。そういう研究をしとんかしてねんか、独自に備前市は、能力あるし、優秀な方おられるんじゃないから、そのくらいのことはできると思うんですけど、ある程度目的とか費用対効果とか、どういうものを目指しておると、姿というものを。今出てきとんのは出てきとんですけど、本当に何が必要なのかというのは検討すべきじゃないかと思う。それと、現場が、実際使ってくれる方がどの程度の理解があって、本当にどうなんかということ。先行するというのは非常に大事なことで、やはり新しいものを導入するというのは非常に混乱します、何についても。だけど、その狙いをきちっとPRしながら理解していただいてやっていくということが、税金をかけるんですから。ただ趣味でやるわけじゃないですから、だからそういうことをよう検証してやっていくべきじゃないか。

それと、総事業費を何ぼイメージしとんか。なし崩しでずるずるいくより、やはりこういうイメージのものをつくらうとして、最終的にはこのくらいかかりますと。あくまでも実証実験というのはようわかるんです。その結果、やめるかやめんかというのをその辺が入とんかかどうか知



りませんけども、実証実験は続けてやるという前提でいくんか、ペケか丸かまでいくかというのもあると思うんですけど。最終的にどのくらい費用がかかるかということも、ある程度出してもらわんと議論できんんじゃないかと思うんです。とにかくええことじゃから、やりゃあええがなど、何ぼかかってもええ、それ以上言わんですけど、ちょっとその辺を。

○**田原主査** 目指すべき目標と、それに全部で何ぼかかるかという質問ですわ。

○**藤田秘書調整課長** タブレットの耐用年数を4年と考えまして、全戸配布いたしますと、平均年額で約2.8億円かかると試算しております。全戸に配布するという方法もありますし、スマホかタブレット端末を御用意いただいて、市のアプリをインストールしていただいて使っていただく方法もあります。そういった場合も、経費の節減にはなるとは考えております。

○**尾川委員** 要するに負担してまで備前市の情報をとらにゃあいけんのんかという、考え方は多少あると思うんですけど、やはりこういうものについては自己負担すべきだという人と市が全部配布すべきだという考え方もあると思うんです。そのあたりをただ1人や2人が考えるんじゃないしに、もっと大勢の人に議論してもらって、そういうことをやはりやっていかんと、来年は交付税減る言よろうでしょう、ある面じゃあ厳しい話しよるわけです。片方じゃあ使え使え、どんどん新しいのをやりましようと言よんのに。物すごい矛盾がある。市民も何となし混乱しとんじゃあねえかな。諦め感もあるんかもしれません。そんな感じがしてならんのです。だから、もう少し時間かけて、いろいろ意見を聞きながら、そりゃあ意見ばあ聞きよったら、前へ行かんというのはいようわかります。黙って、どんどん行かなんだら、一々聞きよったら大変ですけど。せやけど、今の時代は、ある程度聞いて、納得してもろうていくという時代じゃから、時間かかっても、その辺の説明をきちっとして、どうかなと。本当、防災情報何が欲しいんならとか。広島の場合を見よったら、全然こういう問題じゃないですが、ツールの問題で、担当者の問題ですから、あれの本質は。そのあたりをようつかんで、何が問題かということから、どういうふうにしたらええかというのを、広島のをそねんことを言うたら失礼になるんじゃないけど、後から後からぼろぼろ出てくるんですけどね。その辺をもう少し議論して、拙速的にやるべきじゃないと思うんですけど、その点、御意見ちょっと聞かせてください。

○**谷本市長室長** 貴重な御意見ありがとうございます。

防災の話も出てまいりました。広島の悲惨な状況というのは、確かに担当者の件もございまして、私どもで、せんだっての台風11号の際の反省点といたしまして、町内会長さんなんかには電話連絡をさせていただいたんですけども、ちょっと正確に伝わらなかった。避難準備情報と避難勧告と混同したとか、そういったようなこともございまして、防災情報を連絡する際には、複数の方法でアクセスをしていくというのが重要だと思います。そういう点から、今回のこの実証実験にはある意味期待している部分もございまして、その辺から防災関係を配信できるアプリをまずつくって行って、町内会長さんとか消防団の役員の方とか、そういった方たちにまず使っていただきたいと。確かに、言葉で説明を十分尽くせばいいだろうという委員のおっしゃられる意味もよくわかるんですけど、何せこういったものは使ってみてイメージが湧くというか、便利だな

と、よくわかるなというような面が多分にありますので、まずはこういう実証実験から手をつけていきたいという思いでございます。

○尾川委員 要は実証実験も、その前提で、対象者へもう少し詳しく説明して、すぐ唐突にぱつと渡して、こうですよ、ああですよと。ツールも、安全の問題からしたら、いろんな手順を使うと間違いが起こるんですよ。あの人にはこのツール、あの人にはこのツールと言ようと、絶対に人間というのは間違いを起こすんです。やはり情報というのは単純化して伝えていくということも考えていかんと、いろんな手段でやりゃあええ、確かにこうしたらええというのを考えにゃいけない面もあるんですけど、余りいろんな種類を使ようと、国から県からの情報でもミスがあったんでしょ、市役所でも。そういうことが起こるわけだ。1個の手段でも、数値が入ると入らなんだと言うたりするようなことがあるわけだから、単純化するということも、やはり間違いをなくすということも、情報伝達で人から人に渡っていくと、伝達ゲームじゃありませんけど、間違いが伝わることもあるし、そういうことをやはりある面説明していく。要するに、何か上から目線で、これじゃったら便利がええから、これ使えと言うより、もっと納得してこうですよというのを説明するということが必要じゃないかなと思うんです。

○谷本市長室長 貴重な御意見ありがとうございました。

当然、御協力いただける方に端末を配る際には、講習もいたしますし、それから何よりプッシュ型ですから文字で、その方がすぐに受けられなくても受けられるという、こういったような利便性を持ったもので考えていきたいと思っておりますので、まずはそういうツールを使う機会をつくってきたいという思いでございます。

○田原主査 休憩します。

午前11時31分 休憩

午前11時32分 再開

○田原主査 再開いたします。

○掛谷委員 このICT街づくり事業実証実験、これをやりたいという意味では賛成です。ただし、今尾川委員がおっしゃったように、やはり根回しというか、ある程度していかなきゃならない。というのは、私はたまたま町内会長が回ってきて、やっています。78歳、72歳、私が63歳、もう一人が70歳ぐらいですか。恐らく、区長さんあたりでは、私は若いほうです。区長さんでも、パソコンが得意な人もおれば、こらえてくれと言う人もおります。188人の区長さん、何人がお受けになるかということもわかりませんし、消防団員の人全員に、これはちょっと論外でしょうけど。要は、このことを進める、備前市は特化していくというのはいいけど、お金の部分もあるし、もっと大変なのは、周知なり、それを使っていこうという人が本当に大丈夫ですかと。民生委員でも、お年寄りの女性が多いんじゃないかと思っておりますし、その辺が一番心配なところですが、今尾川委員が最後に言ったところが。恐らく、各議員みんな思っていると思うんです。そここのところが余り議論されてない。唐突に導入したわ、受ける側が非常に混乱してしまうんであったら、この事業というのが問題になってくるんじゃないかということをお慮

しているということでございます。今後も、そういった対応というのをどう考えておるのかということも含めて、もう一度答弁をお願いします。

**○藤田秘書調整課長** 高齢者の方で、こういったITが苦手な方とかおられると思うんですけど、1回、2回の講習で使えるようになるとは思っておりませんし、そういった方々にぜひ自由に使っていただけるように、例えばITボランティアとか、全て職員で対応できるということではありませんので、そういったボランティアの方々の育成も考えながらできるだけITが使えるような環境教育といいますか、そういうようなことをしていきたいとは考えております。

**○掛谷委員** ですから、ここの中には、そういうことがほとんど書かれていないです。要するに、フォローアップする、どうやってこれを徹底できるかというところの部分が抜け落ちているんです。こういう人に配る、こういうことができるんですというようなことがあります。だけど、これをちゃんと徹底するには、こういう計画があって、こういうようにしていきますよというのがなかなか見えないんです。そここのところをやらないと、せっかく大きなお金をかけ、備前市はICTのまちづくりという、今の本当に最先端をいくようなことをやろうとしているわけですから、その部分が大事だと思うんです。しっかりとそれをやっていただかないといかんと思います。もう一度その辺のどういうふうに考えておられるのか、もう一度お願いします。

**○谷本市長室長** 貴重な御意見ありがとうございました。

確かに、使われる方の講習であったり、どうフォローアップするかというのは重要なファクターになってくると思います。まずは、先導的にこういうのを使いたいと言われる方がたくさん出てくることを期待しております。

それから、ちょっと使いづらいと言われる方に対しても、講習会等で使えるような形のフォローアップをしていきたいというふうに思っております。

**○掛谷委員** 本当に簡単にできるようなイメージになっていますけども、プッシュ型というのは私もよくわからないので、どういうものかまた見せていただきたいと思います。

**○山本（恒）委員** 試験的に初めはするんじゃないだろうけど、ある程度消防団じゃったら分団長か部長の辺までぐらい、そこら周りへは話はかけとんですか。

**○藤田秘書調整課長** まだお話しはしておりません。

**○山本（恒）委員** 唐突に出てきたと言ったけど、やはりある程度曇ってきたから雨が降るで、雷が鳴り出したかというような感じで、どうせ一番にうちの場合は新聞に出て、そんなんばあでやな。新幹線じゃって、そりゃあ速うは行くけど、時刻表があるからな。ある程度みんなにこんな感じじゃというのを認識させたほうがじゃな、うちは、新しい市長はまるきりぎゅっとくんが得意みたいな感じじゃけど、議員で知つとる者や知ってねえ者がおるけど、そこらでちょっとじっくり考えて、3カ月おくれになるかわからんけど、そねえなほうがえんじゃねえかと思うけど、やはり感じとして、来年はこねえになるらしいというような感じで、それも子供のタブレットやこうは、大体半年ぐらいたったら、みんな浸透してからじゃな、ほんならじゃなというて12月ごろにできるんか、1月ごろに買うんか、そこらまでわからんのじゃけど、みんなに

よう浸透してから、早うおめえ買ってくれと言うてじゃな、渡す人がある程度幹部の人じゃろうからな。最後にゃあ、全戸へ配ったら、1年に2億8,000万円もと言うたりしたら、全戸、山の上のほうのおばあさんらじゃたらええけど、そこら周り軒の下で放送というところもあるし、ひなビジョンがあるところもあるしじゃな、ある程度みんな平等にというたら、どっこもみんなだというたら、そねんになるかわからんけえ、そこらもちいたあ、差別はせえでもええけえ、区別ぐれえしたらええんじゃねえかと思えますけど、どんなですかね。

**○田原主査** 要するに、その予算をつける前に事前にしっかり意向調査が必要じゃないかという質疑ですわ。

**○谷本市長室長** 貴重な御意見ありがとうございます。

意向調査、消防団なら消防団の会合などに出向きまして、いろいろと御理解いただけるように御説明させていただきたいと思えます。

**○川崎副主査** ICTのまちづくりの熱意はようわかるんですけど、やり方が少し、実証実験ということで800万円ならいいかという側面もあるんですけど、私、防災では、防災無線で十分じゃないかと。タブレットで、確かに緊急で伝わるという、非常に最新情報の伝え方としてはいいですけど、最後は防災無線で大声で避難しなさいと言わん限り避難しない方もおるし、耳の聞こえない方も、目の見えない方もおられるでしょうし、最後は自主防災組織に頼らざるを得ないという状況を考えますと、タブレットが、じゃあどれだけ役に立つかと言うたら、年に何日集中豪雨なり台風、日数で言えば、1週間もあるかないかということで、私は、タブレットの日常的な意味では、ほとんど防災的な機能というのは、情報を伝える意味では評価しますが、役に立たないであろうと。そのために、今まで防災無線を設置してきた経過があるんじゃないかということをおきします。

ただ、先ほど言ったように、実証実験を通じて、今広報がどれだけの印刷費と町内への配布代を援助しとんでしたかね、詳しくわかりませんが。例えば、経済的投資効率でいえば、広報を12回出しとんですかね、その発行部数と配送代及び諸経費比べて、瞬時に企画立案できれば、瞬時にこういう、例えば全世帯にはあり得んと思えますけれども、全世帯に配布したとしたら、そういう行政情報と広報なんか全てこういうICTの情報として特化していった場合、経済的メリットはあるのかなということをおきします、もし実施した場合、それ答えてください。私は、それ以外に全世帯に配布するとかというのは、全く無意味だろうと。だって、使えない人が、まだ時代的に、自慢じゃないけど、私自身もよう使いません、今。使ったこともないし。だから、そういう中で、やはり実証実験をやって、その有効性はごく限られた方には必要であろうから、実証実験をやることには反対しませんけども、全戸ということになれば、私は投資効果がどうなのか、広報を初め、いろんな公文書の配布を全て端末でやっていけば、どれだけの経費節約になるのか、プラスになるのであれば、大反対です。私は言うておきます。いかがでしょうか。

**○谷本市長室長** 全戸配布で2.8億円というのが、今から前へ話が出ていくのはちょっと早いかと思っております。

それから、防災行政無線について、それが有効だというのは、おっしゃるとおりで、防災行政無線、これからも整備に努めていかなければいけません、屋外子局の場合は、豪雨なんかの場合聞きにくいとか、そういう問題もございます。いわゆる昔でいう屋内子局、戸別受信機的なものかわりになるという部分もあろうかと思っております。

もう一点、タブレットだけじゃなくて、アプリを開発するというのが大きな柱になっております。ですから、アプリ開発してやれば、今スマートフォンを持っている方が10人で四、五人おられるかと思えますけども、アプリを入れていただくと、そこにも同じように出てきますので、そういった使い方の広がりというのも期待している一面でございます。

いずれにせよ、もうちょっと時間をかけてという御意見もわかるんですが、できるだけ早目にこういう実証実験をやっていく必要があるという判断で計上させていただいております。

**○川崎副主査** ですから、実証実験は反対とは言っておりません。ただ、結果として2.8億円かけて、今1万5,000世帯ですか、1万5,000台分を例えば無償で貸与して、あらゆる行政情報、広報なりをそれで流した場合、現行のやり方と経費の違い、どれぐらいで償却できるのか、ますます経費ばかりがふえるのであれば、現行の情報の流し方で、私の考えでは、もう二、三十年早いんじゃないかなど。完全にスマートフォンとタブレットが、全ての子供たち、成人になるまでに体现できて、それ抜きでは生活できないというような状況になれば、そのときには大きな効果が出てくると思いますが、それまではまだ行政情報なりは広報を見るなり、いろんな形での公文書を見るほうが、まだ過半数から六、七割はそうじゃないかと。ですから、消防団及び民生委員とか、限られた専門職に実証実験をやる中で、それらの意見をまとめて、どういう普及の仕方がより有効的な、効率的な投資効果を生むのか、その辺を絞っていただきたい。答えていないですよ、2.8億円ということをばっちり言いましたけど、今の広報を12回やって、その他の行政でどれぐらい年間かけとんですか。それとの償却を考えたら、どうなんですか。そういう考え方しないんですか、あなたたちは。これでいて、備前市が財政的に厳しいじゃ何じゃかんじゃというのは、空文句ですよ。全然答えていない。

**○谷本市長室長** 全戸配布したら2.8億円ぐらいが想定されるというお話をさせていただきただけで、今すぐそこまでやるというつもりでこの実証実験をやっておりませんので、そこをちょっと御理解ください。

広報等の経済的メリットがあるかどうかということについては、委員のおっしゃられることは重々よくわかりますので、その辺は勘案した上で今後取り組み方法を考えていく必要はあると思います。

**○藤田秘書調整課長** ページ数によって違いますけれど、大体月70万円ぐらい、全体で800万円ぐらいだったように記憶しております。

**○川崎副主査** 印刷代は800万円かわかりませんが、配布に相当の大きな紙の厚さになるから、配達はそれなりに職員の方がやり、各町内へおいたら、今度は町内会長を初め、組長が一生懸命仕分けして、今全戸配布していますよね。その経費も結構かかっているんじゃないかなど

という印象があるんですけど、それを含めると、年間総額、広報一つに絞った場合、どれぐらいの経費が要するのか、参考までにお聞きしたいんです。

○藤田秘書調整課長 配布手数料につきましては、年間330万円でございます。

○川崎副主査 広報だけ見ると、年間1,000万円としても2億8,000万円の投資なら28年かかるということでは、余り投資効果のいいものではないですよ。今までどおり、地元の印刷会社にいろんな形で地域経済の活性化のためにも仕事をしていただく、また配達、町内会長にも自覚的に行政情報を流すお手伝いをする、そういう意識を現行のやり方で高めるほうが、一瞬に流れてほとんど見ないという状況で終わるよりはいいんじゃないかという危惧を持っています。ですから、実証実験は別に反対しませんけれども、それより先は、ぜひ相談して、調査事項なり、我々の世代じゃなくて、次世代ぐらいの議員がやらないといけない課題ではないかなというふうな問題意識を持っています。

○田原主査 ほかに。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようでしたら、次へ進みますが、一応先ほどの委託料が800万円で、機械器具含めると1,678万4,000円もプラスということで、そのあたりも念頭に置いて考えてください。

○尾川委員 財政課長が来とんじゃから、この2億8,000万円の調達というか、どねん考えとん。そりゃ愚問じゃけど、聞いたって返事もできまあけど、ちょっとタブレットの教育予算もあるし、来年は交付税が減ると言ようるよな。こんな委員会で不見識な話をしたらいけんかもしれんけど、ちょっと話を聞かせてください。

○佐藤財政課長 この事業が実際本格的に行われるとしたら、1年に2億8,000万円、4年で11億円ぐらいになろうと思うんですけども、これは全くの一般財源でありますので、備前市の収入から考えると非常に大きな負担になろうと思います。それを支払っていけるかどうかということについては、そのときそのときの収入の状況にもよるでしょうけれども、今委員がおっしゃられましたように、来年から普通交付税は、合併算定がえから一本算定へ向けて減額調整が入ってきますので、そこらあたり慎重に考えないといけないのかなというふうには今思っております。ただ、ここで慎重という表現を使いましたけれども、それはそのときの状況によりますので、その段階での判断ということで御理解いただきたいと思います。

○田原主査 この件、よろしいか、このぐらいで。

〔主査交代〕

○川崎副主査 主査とかわって、司会させていただきます。

○田原主査 委員としての発言をさせていただきますが、とにかく実証実験賛成と言われる方もありますけども、実証実験をする前段でやはり我々所管の委員でもありますから、それもまして中途じゃないですか、補正ですよ。その中で、やはり所管の委員会でこういうようなICT街づくりについての意見をお互いに話し合うと。当然先ほど出たように、消防団の意見も聞いたんですか、民生委員はどうですか、議員はどうですかというような話の中で最終的に実証実験やって

みましようかというのが手順じゃないかと私は思うんです。

それで、先ほど課長は、一、二回の講習では無理だと言ひ、また消防団等については今後そういう会があったら説明をしてみたいと。ここで予算を決めてしまつたら、もうあなたたちが執行するわけ、我々が言う場がないわけです。教育用タブレットの導入にしたって、どれだけ学校のほうで混乱があるかというものを見せつけながら、また同じようなことがここでされようとしとる。そのことについて、誰に聞こうかな。室長、どうですか。

**○谷本市長室長** 学校用のタブレットの件については、コメントは、済いません、控えさせていただきますと思います。ただ、混乱が起きないように取り組んでいきたいという思いは当然持っております。その点は御理解いただきたいと思ひます。急に補正予算でということですが、せんだつての集中豪雨等もございまして、こういった取り組みは一日でも早いほうがいいだろうというような議論がありまして、今回補正予算で急遽上げさせていただいたという形になっております。

利用も、まずは防災だろうというふうには考へておりますが、今後広報であつたり、福祉情報であつたり、振り込め詐欺の情報であつたり、多方面にわたつて使えるような、そういう可能性を秘めた取り組みだというふうには自負しておりますので、実証実験として取り組んでいきたいというふうには思つております。

繰り返しになりますが、タブレットを配るというのが目的、それは大きな要因ですが、アプリケーションをつくつて、それをスマートフォンであり、タブレットを持っている方、どなたでもそのアプリをインストールしていただいたら使えるような形にして広めていきたいという基本的な考へ方を持っております、ちょっと答えになつてないかもしれませんが。

**○田原主査** これも、教育用タブレットと同じで、いきなり2,700台という話がぽんと出てくるわけです。アプリというのが、私もえろう詳しくないんだけど、300台で800万円、それで機械器具設備で1,600万円、一遍に300台せんといかんの。そういうような防災を優先するんであれば、防災分だけ、急ぐもんだけをとにかくやつて、実証実験。実証実験は、私も賛成。すりゃあええと思う。それがいきなり300台で、いきなり将来2億8,000万円要るような、そういうようなところをまぜこぜで何でやるんというて、もう少し導入については議員の意見も聞いたり、貸し与える相手さんの意見も聞いたり、防災に役に立たなんだらどうしようもないやろうということで、やはり計画がずさんじゃねえかというふうに思われる。いかがですか。

**○谷本市長室長** 御指摘の点は反省点として捉えさせていただきますと思ひます。ただ、300台というのは、当初話をしていく中では、1,000台とか500台とかという話もあつた中で、300台最低ラインにしたのは、通信回線費とか、それを話す中で、300台というのが妥当な線ということで出てまいります。それから、ある程度対象の方も広く求めたいという思いもありましたので、アプリがどのくらいの精度にできるかというのにも左右されてくるんですが、消防だけじゃなくて、民生委員さん、区長さん、自主防災さん、それから議員の皆さんにも

協力いただけたら、多方面にこういう可能性を探りたいという思いがありましたので、300台という数字で一応提案させていただいてるわけでございます。

**○田原主査** 300台にした根拠は何かということ。私たち、資料も何もないわけ。例えば、実証実験なら、10台でやった場合はどう、100台でどう、防災に限定したらどう、そういうようなものを示されて、あんたたちは自分たちで資料を持っとんだらうけど、私たちは、ここで予算が出て初めて聞くような話です。それはどうかと思う。今、委員会の委員としてもう少し、やはり二代表制ということもあるわけですね。私ら、それだけの力がないから、我々のほうからよう提案はせんけども、最低限度のやはり知識は知って、それで賛否は聞きたいです。答弁はよろしい。

**○川崎副主査** かわります、どうぞ。

〔主査交代〕

**○田原主査** それは、主査としての執務に入ります。

**○山本（恒）委員** 去年の消防無線も6億円ぐらい繰り越したりやあへんかな。まだ計画がずっと続いて、大きな計画の無線計画がむちゃくちゃな大きな金額でしたが、こんなもんが2つずつぐらい買えるぐらいな予算がまだ寝とるわね。

**○大岩危機管理課長** その6億円と言われるのは、多分今東備消防組合がされている救急消防のデジタル無線化だと思うんですけども、うちのほうもその連携市町村ということで、国庫補助金2分の1を使いまして、来年度国庫補助金を使ってやる事業を約7億円ですけども、予定しております。ここでまた後から出てくると思いますが、補正予算で実施設計のほうの委託料のほうの見直しの予算を計上させていただいております。

**○山本（恒）委員** そういうふうには小出しで、こっちのほうで忘れた時分にこんなもんが出てきて、総合的に備前市をほんまに何でやりよんか、無線はものを言ようるけど、こっちへはかかってきたわというたりしてから、偉え人には、みんなそればあがかかって集中すると思うんです。しゃあから、ある程度間引くと言うたら表現が悪いかわらんけど、どこかへ、財政課長が言われるように、合併算定がえが来て、多くならんのかから、少しでも儉約をするというような感じで幹部連中は考えていただかにかいけんと思っております。

**○藤原総合政策部長** 先ほど財政課長も申し上げましたが、次期行財政改革プランにはですね、公共施設マネジメントという4つの項目の一つ、大項目、今の行財政改革プランは、その下の項目ですが、公共施設マネジメントという項目を1つ格上げして、類似施設とか利用していない施設、そういった施設の統廃合を考えております。これは、市長の強いリーダーシップがないとできないと思っておりますので、皆様方の御協力のほどをよろしくお願いいたします。

**○田原主査** 休憩します。

午後0時04分 休憩

午後1時00分 再開

**○田原主査** 休憩前に引き続きまして、予算決算審査委員会総務産業分科会を再開いたします。



ただいま19ページの総務管理費をやっておりますが、そのほか総務管理費についてございませんか。

○掛谷委員 18備品購入費、機械器具備品に720万円と公用車の576万円ありますけども、まず機械器具備品、これ防犯カメラで、お手元に何か配付をされていますので、説明をしていただきたいというのが1点。もう一つは、公用車は小型パトロール、これも何かついておるようですけど、ただしここでは1人乗りということで。

私も、実はパトロールをやっております。基本的には、2人以上で回っているんですよ、パトロールは。1人で行くというのは、余りしないです。だから、一人用の電気自動車に限定をするというのは、やはりニーズがどうなのかなど。その辺よく調査されてこういうことになっているのかどうかちょっと心配です。

○大岩危機管理課長 1点目の防犯カメラにつきまして説明させていただきます。

お手元の資料を見ていただきます。

まず、この防犯カメラの設置事業ですけども、去年は備前警察署の要望もありまして、54カ所、77台の要望をいただいております。当初予算のほうに3台150万円計上していたんですけども、7月の倉敷の小学校5年生の女児の誘拐監禁事件を受けまして、市長の強い意志によりまして、今回21台、計24台を設置することといたしました。

設置箇所、今16カ所上げさせていただいているんですけども、まず警察の要望にありましたように、駅とかの犯罪発生率の多いところと、あと通学路、小学校、中学校の関係のところを上げさせていただいております。今回は16カ所ですけども、随時54カ所、77台設置を3年計画ぐらいで考えております。

それから、2点目のコムスですけども、こちらも市長の強い防犯に対する思い入れがありまして、倉敷市の女児誘拐監禁事件を受けまして、電気自動車を購入することといたしました。

電気自動車の車種はどのように選定したのかという御質問ですけども、確かに1人乗りなので、青パトとしては回転灯はつけられません。これは、警察署のほうにも言われております。1人乗りのもので公用車を選んだ、貸し出しするというんですけども、これも7月の誘拐事件を受けまして、市長が安全・安心の見守り活動をより充実させたいという思いから、環境に優しく、低燃費で、狭い通路の露地でも小回りがきく小型の電気自動車1人乗りを防犯団体に貸し出すと決められました。

○掛谷委員 防犯カメラ77台全部すると幾らかかるのか。

○大岩危機管理課長 約2,200万円でございます。県の補助金が全部つきますと、そのうちの2分の1が県の補助金になる予定でございます。

○掛谷委員 防犯カメラ、これ問題は、あと何か事件が起きた後にこれを解析していくやり方なのか、それとも1カ月に1回ほどするのか。それから、この維持管理はどうされるのか、その辺のソフト面のほうはどういうふうにお考えになっているのでしょうか。

○大岩危機管理課長 防犯カメラの運用につきましては、SDカードで10日前後録画できます

ので、事があってからデータをとりに行くという感じになります。

それから、維持管理につきましては、電気代が主なものだと考えております。あと、SDカードの消耗期限が2年でしたか、あると思うんで、それだけだと考えております。

○掛谷委員 それは、備前市職員がおやりになるんですね。

○大岩危機管理課長 危機管理課で対応いたします。

○掛谷委員 カメラは警察のほうから54カ所、77台は必要ではないかというふうに、警察のどっちかと言えば、先達というか、依頼を受けておやりになったということでしょう。警察以外に、誰がそれをほんならわかるんかと言うたら、なかなかわからんとは思いますが、例えば、住んでいる住民が本当にここは危ないよというようなところが仮に出てきた場合は、どのような対応をされようとしていますか。

○大岩危機管理課長 とりあえず77カ所は考えておりまして、地元からの要望がありましたら、随時市のほうで設置を考えていきたいと考えております。

○掛谷委員 1人乗りというのが、ひとり歩きというか、どうなんかなと思ひましてね。物を導入するというのは、私も反対はするんじゃないですけども、どういうふうな実際の運用の仕方を考えているのかなと思って。私も、夜間パトロール、それからまた学校登校の安心・安全の見守り隊もやってきました。この1人乗りというのは、どうやって運用するのかというのが、まことにイメージが湧かないんです。もう少し教えてください。

○大岩危機管理課長 貸し出しの要綱、規則等の中で、児童等通学路の防犯上の見回り、午前午後のほうを地区の防犯団体、今回は備前市が補助金をお出ししている防犯団体のほうにこういった計画があるのですけども御要望ありますかということでお聞きしたところ6団体に手を挙げていただきましたので、そちらのほうに貸し出すということで、このたび予算計上をさせていただいております。後々ほかの団体からも御要望があれば、追加で購入のほうを考えております。

○掛谷委員 ぜひ、この1人乗りというのも、それなりにやって、効果というか、それなりのメリットというか、それが出れば、それはそれでいいんでしょうけれども、やはり使い勝手が悪いというか、2人乗りとか、普通の4人乗り、それから青パトができるような、せつかく購入する高いものですから、しっかりと実際やっている団体等々の意見も聞いて、今後につなげていっていただきたい。これは、ちょっと要望ですけど、どうでしょうか。

○大岩危機管理課長 先ほども申し上げましたように、車種につきましては市長の強い、スマートカーとか、ガソリン車でないとか、クリーンな電気自動車とかという強い意志のもとで車種決定をいたしました。

○掛谷委員 私は市長に物申すというんじゃないんですけど、何のためにこれを導入されるのかというのが大事であって、それが電気自動車であろうが、ハイブリッドであろうが、それは二の次だと思うんです。目的は、あくまでも防犯用というのがまずメインです。そのときに、電気自動車の環境に優しいというものがあるのではなかろうかと。何か電気自動車が前に来て、パトロールが後だと、どっちでしょうか、これは。

○**谷本市長室長** 先ほど危機管理課長が申し上げたとおり、市長の強い思いがあったんですが、それは当然倉敷の女兒の事件を受けて、防犯パトロールをボランティアでしていただいている方たちに支援をしたいというのが一番でございます。とはいっても、一方で小型モビリティを機会あるごとに進めたいという政策的な意図もございまして、今回こういうふうな車種を選定されたという背景もございます。

○**掛谷委員** しっかりとニーズ把握というか、キャッチボールをよくしていただきながら進めていただきたいというのが思いでございますので、何も全部反対ということじゃない。しっかりと現場のニーズを把握した上でちゃんとやっていかないと、せっかく導入したわ、余り活用しなかったといえば、水の泡ですから、そういうことでよろしくお願ひしたいということでございます。

○**尾川委員** いろいろやりとりあったんですけど、まず目的が、何か一般質問で答えたかどうかちょっと、公民館で管理させるとかというような話があったと思うんです。例えば多様的に、要するに車買うんなら、公民館には車ないんですよ、今。あるところはあるかもしれないですよ。片上公民館に限って言えば、ないんです。そのときに、やはり危機管理だけじゃなしに、もっと広い意味で車という捉え方で、それから今、午前午後パトロールする、誰がするんですか、それ。誰が運転してパトロールを毎日毎日するんですか。

○**大岩危機管理課長** 地区の防犯団体の方にお願ひしたいと考えております。その辺の防犯団体の方に要綱を貸出条件の中で、どういったことに使うかというのは、運用上で規定させていただきたいと考えております。

○**尾川委員** 青パトの、あんた資格持ってねえんかどうか知らんが、備前署で講習2年か3年であるんです。その講習では、2人で作業してくれと、市役所の職員も2人で対応するでしょう、交渉事的时候は。要するに、1人じゃあ心もとないから、1人が証人になるような感じじゃと思うんです。そのときに、やはり小型でええけど、もっと多様的に、もっと金かけるんなら、正式な青パトに何でせんのですかということもまず。電気でもええんですよ。2人乗れるトラック、ここにカタログがある。みんなトラックでボランティアをしようるわけですよ、今現在。軽四でしよる人がおりますけど。電気自動車でもええんですよ。どうして1人乗りにしたんですか。

○**大岩危機管理課長** 確かに、1人乗りですので、警察の指導のほうは、青色の回転灯はつけられないということでお聞きしております。ただ、目立つ車ですので、学校の周辺域をパトロールしていただきましたら、またシールとかも「パトロール中」というのを張りますので、その辺は目立つ車で、防犯上のかなりの効果はあると考えております。

○**尾川委員** 何ぼ話してもおえんけどね、あんたおかしいと思わんのかな。青色パトロール隊がそういうことをするのに、青色のパトライトをつけられんというのが。もう少し担当者としたら頑張っって、今何と言うたかな、市長の強い意志で決定しましたという、少しはやはり筋を通していかんと、市民もみんな、あんたは納得しとるかもしれないけど、市民の大多数は納得せんのではないん。私はそう思う。ほかの人は知らんよ、議員も。電気自動車はええんですよ。2人乗れるようにして、公民館へ配置するなら、公民館でスポーツ活動、いろんな文化活動をするときに

使えるような、もう少し多機能のそういう用途で使えるようにするとか、もう少し創意工夫があってもええんじゃねえん。ただ1人乗りで、朝晩学校周りをばらばら回るといっただけでなしに、もっと機能的に、せっかく税金使うんじゃから、もっとそういう発想はないかなと思うて、ちょっと残念じゃけどね。青色パト、せっかくそりゃあ色も白黒に塗るんか、今横へ「パトロール中」というのを張るんかもしれん。

もう一つ要らんことを言うて、余り質問をようけしたらわからんようになるけど、何台かパトロール隊で協力しよるところがあるでしょう、御存じのとおり、それにはついとんですよ。市の車につかんというの、どうも私は疑問に思う。あんたらは、疑問に思わんのかもしれん。こっちがおかしいかもしれん、あんたがおかしいか、どっちかわからんけどな、どうもしよるといっことが。一遍に6台も買う必要ないんです。予算が限られとんだったら、その範囲内で、2台ずつとか、3台ずつとかといっことで、長期的に、一発にやらずに、徐々にやらにやあ。

もう一つは、安全・安心をやるんなら、車だけ買い与えてやるだけじゃあいかんと思うんです。やはり地域の盛り上がりをもう少し、やりよるといっかもしれん、答弁では。地域の活動を、例えばPTAにもっと巻き込んでもろうて、どんどん、そういうことをやることも必要じゃないん。ただ車を買って、電気自動車を買って、パトライトもつけられん車を買って、何かないと思う、同じ金使うんだったらと思うんですけど。あんたに言うたって、市長の強い意志でやるって答弁されていますので、何ともいっようがないけどね。もう少しあんたらも、工夫があってええんじゃねえんかなと思うんじゃ、偉そうに言うんじゃねえけど。

**○大岩危機管理課長** 御指摘のとおり、1人乗りで回転灯がつかないといっことは、前々も私のほうも説明は市長のほうにいたしました。ただ、その車については、回ること目立つといっことで、この車にといっことで決めました。

あと、地域を巻き込んでといっ御指摘ですけども、確かに地区の防犯団体あるいは育成団体ですか、そちらの方にも今回また要望のほうをお聞きしまして、運用のほうを考えていっきたいと考慮しております。

**○尾川委員** 要するに車の運用でなしに、あなた危機管理じゃろう、担当は。そうしたら、安全・安心を確保するために、それはパトロールに要する車もあります。そういういろんな活動もありますよ。いろんな形でもって総合的に対策といっものを立っていっかないといっけんと思っ。

もう一つは、今地元の協力ボランティアで、軽トラとか軽四で回りよる人の扱いをどう考えとんですか。何らかの登録、こっちへわかっとなかわかってねえか知らんけど、そういう把握をしとんですか。

**○大岩危機管理課長** 今地区のボランティアの方で、自分の車で青色パトロールの御協力をいっだいていっる方は、一応こちらで把握していっるのは10台を把握してあります。そういっった地区のボランティア団体の方に今計上してあります車なども使っただけいっればと考慮しております。

**○川崎副主査** 私は、日生なんかは、はっきり言って、この小型電気自動車より、小型電気バイクのほう、より犯罪に有効ではないかなと。いっるのは、路地裏に入ると、やはり子供を最後

まで見守れないと、ついていけない限り。そういう問題もあります。だから、地域によって、道路の幅によって違うんですけど、基本的に6団体欲しいということは、それで結構ですけど、私のイメージとしては、朝の登校のときには集団でほとんど学校へ行っていますし、ただ帰りは時間割りによって少し誤差があるんじゃないかと。そういう意味で言いますと、防犯パトロールも、1日のうち限られた時間ではないかなと。それ以外、町内会の集会所というんですか、そこで200ボルトを充電して、これも三、四時間かかるんじゃないですかね。私なんかのアイ・ミープでも、4時間半ですからね、フルに充電しようと思うたらね。これがたしか走行距離が50キロぐらいですよ、1回充電で。急速充電すりゃあ、10分、15分で入ると思いますけど、6カ所つけるんで、急ぐときには、50キロ使って、その前に急速充電すれば、また50キロ走れますけど、どうも投資した金額に比べて、活用を一体何にするのかというのが、防犯だけというのと、じゃあ子供たちが登下校している以外、どういう使い方があるかというのが疑問です。だったら、私は、一通り終わったら、本庁及び支所に集約して、そこでゆっくり充電させながら、公務で職員が使ったほうが、より合理的な活用方法ではないかなと。事実、今たまたま本庁から日生の総合支所へ来るとんじゃが、ちょっと見かけんから、吉永へ行っているんかどうかわかりませんが、寄贈いただいたコムス。善意でやることはいいんですけども、全体考えると、一部自主的町内会組織に、私的に使われる要素が強くなるんじゃないかという危惧を持っています。防犯以外のときは、このコムスどういう使い方を考えていますか。どういう保管を考えていますか。

**○大岩危機管理課長** まず、コムスですけど、100ボルトの充電で、6時間フル充電で走行距離50キロです。

確かに委員御指摘のとおり、朝よりは夕方3時、5時ぐらいに、登下校中に一番見ていただきたいというのは考えております。

それからあと、防犯だけに使うんじゃないかと、ほかの使い道もあるんでないかという御指摘ですが、その辺はうちが貸し出すときの条件等の中で、高い買い物でございますので、運用面で考えさせていただきたいと考えております、公民館とかの事務的なことについては。

**○川崎副主査** ちょっと勉強不足で、100ボルトで6時間というのは、そういえばそうだったんですけど、やはり効率的に使おうと思えば、200ボルトで200になれば3時間で済むんか、4時間かよくはわかりませんが、アイ・ミープで4時間半です、10キロワットが。だから、これが5キロか、大したワットじゃないと思うんです、走行距離50キロを考えますと。だから、有効活用を考えるなら、やはり拠点とするところには200ボルトのコンセントというんですか、充電が置けるように、200ボルトないんですか、コムスは、100ボルトのみですかね。ちょっとそこだけ、まず聞いて。

**○大岩危機管理課長** 100ボルトのみでございます。

**○川崎副主査** はい、わかりました。100ボルトだと6時間かかるんで、1回走ると、朝使うと夕方まで使えないという現状があるなら、そう心配しなくていいんですね、走れないわけですから。もしかしたら、勝手に乗って、私的なことに使われるような状況が起こり得るんじゃない

んかというさっきの質問なんです。だったら、全部本庁及び各支所に集約して、公務で使っていたほうが。特に、急速充電器が使えないんだったら意味がないんやけど、できれば急速充電器でやれば、15分か20分で満タンになりますので、せっかく6カ所も急速充電器つけるんなら、本当に再検討していただいて、アイ・ミーブか、こういうトラックにするとかして、青パトもできるし、急速充電器で15分ほど使えば、どんどん公務の方、また町内会の方が市役所へ公務で動く場合なんかは移動手段として使えるとか、24時間の急速充電器が目の前へ今設置できる状況ができよるわけですから、やはり限定した使い方では、80万円ですか補助金いただいても、そういうものの投資効率というのは非常に悪い状況、そのままと言うんじゃないら、もう一個ランク落として、私は25万円前後の電気バイクに変えたほうが、もっと効率的な行動範囲がとれるんじゃないのかなという考えをしています。いかがでしょうか。

**○大岩危機管理課長** 先ほどから1人乗りの電気自動車コムスの運用で、もったいない、青パトにもならないという御指摘は、私のほうも重々承知しております。ただ、この車種の選定につきましては、先ほどから言いましたように、私は、別に軽四でも……。ただ、防犯上の市長の考えですか、路地裏へ行けて、低燃費で、ガソリンが要らない。それから、6時間でフル充電50キロ走って、電気代でリッター3円といった効率的なものを市長は見られております。あと、1人乗りで、一番は路地裏等へ行けると、細い道も行けるということを考えておられます。

**○川崎副主査** 道路が広いエリアの学校区は、やはり電気自動車がお勧めなら、軽トラなり、バンなりをお勧めしていただいて、そのかわり台数は限られるでしょうけど。日生地域ではコムスでも構いませんけれども、できればもう少し細かいことを言えば、これから以降の普及をよりして、防犯体制をつくるのであれば、電気バイクのほうが、最も1人乗りでは効率的な防犯ができると思います。コムス、これだけを普及するというメーカーの何かセールスをやっているんじゃないですけど、もう少し地域のエリアの地形を考慮して、やはり導入はいろいろ慎重に検討していただくことが最も効率的なものになるんじゃないのかな。特に、急速充電器24時間開放でつける意味が全く意味をなさないような電気自動車というか、電気軽四ですか、50ccというんですか、これ。何というたらいいんです、これ。そういうものをつけるに当たって、急速充電器が使えて、私なんかは深夜電力で100円で100キロですから、1キロ1円ですよ。それで乗れるんで、これよりも効率がええような状況なんで、経済効率というのも、もう少しいろいろな具体例で勉強していただいて、地域に合った環境に優しい防犯体制の道具をそろえていただきたいということを要望しておきます。

**○田原主査** 主査から申し上げます。

先ほど提案者から、私は変えてもいいんだという答弁がありましたが、あなたは提案者なんです。私たちは、その提案に基づいて議論をしとんです。そういう中で、議会側からは、青パトの使える2人乗りにしてはどうか、それからもう少し効率的に空き時間も使ってはどうかという提案が出とるわけです。それについて、この予算が通った場合に、それを変えることができるの。それとも、市長がこう言うんじゃないから、これせんといかんの。はっきり答えてください。

○**谷本市長室長** 車種につきましては、先ほど来申し上げているとおり、市長の強い思いがございます。

経済性につきましては、川崎委員おっしゃられるような電気バイク、電動バイクに比べたら高いですが、ミーブとか、そういった電気自動車よりは安い。100万円足らずという状態でございます。100万円弱で、公民館に設置を一応想定しているんですけども、あいた時間につきましては、充電があれば、地区公民館の職員等が事務的に使っていただくのも、運用の中で対応していきたいというふうに思っております。

○**田原主査** これは、議会側としては、丸かぺけしかないと、こういうふうに解釈したらいいんですな。

○**谷本市長室長** 我々としては、予算を通していただきたいとは思っております。

○**山本（恒）委員** 話をわからんから聞きよったんじゃけど、ほんなら幹部連中はどっちでもええというような感じに、総合的にはとれるんですけど、我々はイエスカノーしかねえんですけど、1年に1回はイエスカノーかぐれえしかねえんじゃけど、ほんと青パトと言うたらようようわかったんじゃけえ、私も免許証を持ってねえから、2人乗ったら青パトで、1人だけじゃったら、そりゃあ出ていって捕まえに行きよったら、単車か自動車かわからんけど、そらとられるような感じで、どうせここで金をかけてするんじゃから、そりゃあ課長の言よったような、市長にみんなで頼んで、やはり軽四のほうがええわ、青パトになるしと言うたほうが。川崎委員は、狭えところは1人でええというて言うけど、大半の人はやはり油代を自分で持ったりしよる個人の、うちのほうも、登録はしてねえんじゃろうけど、軽四に「パトロール中」という厚紙をテープで張るとる人が割とおられるような感じで。ぜひ、午前中から言ようように、ある程度みんなにわかるようにしてからするんがえんじゃねえかと思えますけどな。

○**谷本市長室長** るる御指摘を受けたのは、青パトにできないからという点につきましては、我々としても当初から認識はいたしておりました。その中で、コムスで防犯用の車両、公民館等に置けば、普通に100ボルト充電で使えるというようなことで、現在安全・安心パトロールをやっている団体さんに御希望をお問い合わせした中で、6団体使いたいということで担当のほう聞いておりますので、まずはそちらのほうにはこれを使っていただきたいというふうに考えております。

○**山本（恒）委員** それでしたら、使用要綱というんですか、きっちり朝7時半から8時50分まで使用して、だれが使用して、何キロメートルが出てというようなのを、ぴっちりしたことをしてもらわんで、ええかげんで、いやあお店へ行とったんじゃと言うて、いやあ子供が行ってうろうろしよるやあへんのかなと思うて行とったんじゃと言うたりするような、いろいろ理由がつけますが、借りた以上はその人らが大体自由に、自由にじゃねえんじゃろうけど、使用すると言うたりする分。そこら回りは、ぴっちりそんな計画はできとんですか。

○**大岩危機管理課長** 委員御指摘の使用方法ですけども、一応申請をいただきまして、うちが許可制にしております。当然、運行簿、それからこれは原付扱いですけども、運転は普通免許証と

ということで、当然乗る人の免許証等リストを提出していただきます。それから、日々使った使用簿等を月締めして提出していただくようなことを考えております。

○山本（恒）委員 ぜひ、使用ができんような方策で、ぴちっとした締めつけをかけていただきたいと思います。

○大岩危機管理課長 そのようにやってまいります。

○掛谷委員 逆なことをちょっとお聞きしたいんですけど、手が上がったのが6団体と。逆に、もうよろしいですわというお断りがあったかと思います。それはどういう理由なのでしょう。そういうことがあったのではないかと思うんですけど、どんなんですか。

○大岩危機管理課長 まず、例といたしましては、スクールバスとか乗る地区につきましては、そういったものは必要ないというような御意見もありましたし、防犯団体の方で見回りしているので、そういった車は要りませんというような感じです。ただ、市といたしましては、また要望等をお聞きしますので、そこで全て要望を打ち切ったというわけではございませんので、後々手を挙げていただければ、そちらのほうを考えさせていただく予定でございます。

○掛谷委員 ほんなら、1例で、香登は、私どもは、非常に熱心にやっている自負があります、安心・安全で。香登地区は手を挙げていますか。

○大岩危機管理課長 香登地区は挙げられておりません。

○掛谷委員 不思議なんですよ。うちの香登というところは、失礼ですけど、本当に熱心なんですよ、みんな頑張ってる。それが、手を挙げて、これをどうぞということがならんということ自体に、どうしてだろうかなという不思議なところがある。というのは、やはり青パトができんとか、管理の問題とか、僕のイメージとしては、このキャブですね。恐らくこれ2倍から2.5倍ぐらいの値段はすると思うんですよ、このコムスよりも。いわゆるキャブ、ミニキャブの電気自動車ですわ。これは、2人乗れますよ。場合によっちゃあ、これは規制が要りますけど、その地域地域では、こういうものがあつたら助かる部分があるんです。だから、目的外、用途外ですけどね、活用するには、青パト以外に使うちゃあいけんと言うたら、何もできませんけども。2人乗りです。だから、こういうものを使って青パトもやっているのも事実だし、普通車でやっている人もおられます。やはりこれ格好はいいんです、コムスは、格好がええ。それなりのPRがあるんです。ただ、格好がいいんじゃないかと思うんです。実をとる、本当にパトロールをきっちりやるということが一番大事なわけで。半分の値段だからたくさん買える、それもあるでしょう。だったら、少しずつ少しずつ整備していけばいいわけであって、格好とか、そういうことよりも、ほんまにぴちっとやっていく計画のもとで、これが地域でまた公民館で利用されることもあつたら助かるんじゃないかなと、これはちょっと違うことではけれども、よくその辺も精査されて、導入をされたらいいんじゃないかなと私は思いますが、どうでしょうか。

○谷本市長室長 御意見賜っておきたいと思います。今回については、このコムスで考えたいと思いますので、御理解いただきたいと思います。

○田原主査 次に入りますが、ほかに。



**○川崎副主査** この資料の防犯のカメラの関係ですけど、やはり連続で小学生ですかね、今倉敷があり、あと今神戸の話だというふうに、小学校1年の女の子という報道されております。そういうことを考えますと、やはり私は、77カ所が、最終的にあらゆる犯罪をチェックする上では必要なカメラでしょうけれども、やはり緊急を要するという意味では、特に小学生、中学生の女の子が危ないというのは現実でしょうから、それを考えますと、残念ながら、西小学校はあるんですけど、東小学校はないんです。今、生徒数全体で、全体では西小学校が1名多くて、東が1名少ないというふうでしたかね。だから、同数なんですよね、ほとんど。ということになれば、なんでお向かいができる、日生幼稚園のところにカメラがつくのかと。ではなくて、やはり通学している東小学校、できれば、11月にはブルーラインが完成しますと、あそこから自由に犯罪した場合に逃げられる可能性があるんで、あのT字型のところ、一番カメラ設置場所としては有効ではないかなということを感じておりますので、小学生をまず最重点、中学校最重点でいくなから、東小学校のポイントになるところへ、ぜひ幼稚園のこのカメラは移すことを要望しときます。何で幼稚園という、たしか全部父兄が幼稚園バスですか、全園児を車で送り迎えしとるでしょう。各停留所には御父兄の方がお待ちしているわけだから、基本的には交通事故以外に犯罪は起こりようがないというところになぜつけるかという、問題意識がすごくずれているんじゃないかなと。だから、警察はいろんなところへつけてもらいたい要望はわかるんですけど、今緊急にこういう補正で組むとしたら、やはり今ニュースになっている小学生、中学生を中心に、少しでも抑止力的な防犯カメラの緊急性があるんじゃないかと思っておりますので、もう少し慎重に、ただつけたらいいという発想はやめてほしいということを要望しときます。いかがですか。

**○大岩危機管理課長** 委員御指摘のことも考えまして、一応16カ所設置予定場所ということで考えさせておりますけども、これは電気がとれるところ。確かに、日生東小学校も、警察のほうでは歩道橋の上とか、いろいろ要望あったんですけども、なかなか歩道橋の上というのは、うちのほうも設置ができないということで、その辺は考えて、今後御意見として承っておきたいと考えております。

**○川崎副主査** 犯罪防止だったら、残念ながら、これ見ると、全部旧日生地区なんです。唯一幼稚園だけでしょう、これね。だから、どうしても東へ抜けたら、カメラがなければ、どのルートで逃走したのか、誘拐したのかわからないんですよ。どうしても、あのT字型のあそこにチェックしないと、東へ逃げた場合、チェックできないじゃないですか、これ病院前、梅灘の辺をうまく抜けられたら。そこで、西へ行って、旧2号へ逃げていくのか、それとも赤穂市のほうへ逃げていくのか、やはりそこは重要な防犯カメラの最優先で必要な場所だと私は考えますよ。もう少し地理学的な、防犯のときにどういう逃走ルートがあるのかということで、重点ポイントはどこかというぐらい、危機管理課という名前がつくんだしたら、その辺は危機的意識を考えてみてやってくださいよ。警察が言よんだしたら、何で歩道の下につかないんですか。歩道の下なんか、防犯カメラがあって当たり前じゃないですか。何で幼稚園みたいな、全員が送り迎えするところにつけて、遊びの防犯カメラですか。どう答えます、そういう質問に。

○大岩危機管理課長 あくまで、私どもは現場を77カ所全部見に行きました。それで、カメラを立てる場合に、電柱、ポールを立てまして、電気の引き込み工事ということでカメラを設置します。いろいろ回って考えて、とりあえずは設置しやすい場所、電柱はちょっと共架は無理ですけども、ポールが立てられて、電線がとれるところということで、最初の1段階として、この16カ所を上げさせていただきました。後々、あと3年計画で77カ所してまいりますので、順次整備はさせていただき予定でございます。

○川崎副主査 せっかく電柱つけるんなら、250号沿いは幾らでも電柱立っていますよ。枝線を出せば、すぐにも設置できますので、ぜひ寒河地区が、引っ込んだ幼稚園という、確かに昼間子供をわんぱく広場とかスポーツ施設ではやっていますが、ほとんどは大人ですよ。幼稚園なんかは、全員あれだったら、全く必要ない。設置しやすいからつけるようなお遊びのカメラとしか私は認識できないんです。最も犯罪を抑えやすいところに、限られた24台、23台つけるんなら、寒河地区についての犯罪防止のポイントが抜けていますということと言います。それを簡単に、つけやすいところにつけますんだったら、山のてっぺんへつけとかれえ。そうでしょう。何で意味のないところにつけるんですか、予算を使って。本当にそういうところを議論できない危機管理課ですか。誰が考えても、あのT字型が最も今寒河地区の3方向に逃げられるポイントなんです。特に、道路ができれば、物すごいスピードで国道2号から広域に犯罪が分散することになるんですよ、犯人捕まえるのに。まだ、赤穂ならいいですよ、山陽自動車道に乗るまでは。だけど、あそこの3分岐点のT字型は、重要なポイントでしょう。変更していただいけませんか。絶対やらんのだったら、ぜひ反対しますわ、この予算は。

○大岩危機管理課長 ここに16カ所上げさせていただいておるのは、あくまで設置予定箇所ということですので、その御意見のほうは承っております。

○川崎副主査 結構です、よろしく。

○尾川委員 同じような話ですけど、備前警察署の情報という、1つの大きな条件があります。それから、今いろいろ話があったけど、学童の安全・安心か、一般犯罪の安全・安心かというのがちょっと読みづらいところがあるんです、これを見たとき。学童にある程度重点をシフトしてやるんなら、学校側の意見を聞いたりするのも一つの、ただそういうふうに、学校の先生に聞いたりとかどうか知らんですよ、学校の先生も忙しいから、それどころじゃねえかも知らんけど、そのあたりで、通学路の生徒の数とか毎年変動するし、状況変化するけど、ある程度聞いて、警察なんかどっちかというたら、一般犯罪かなと思うたりする面もあるんです。だから、その辺をよく、目的というのをどっちに、この24台のうち半分は一般犯罪と、半分は児童というふうに、何かその辺をして、学校側にもある程度情報を問い合わせ、全部77カ所見てくれたというのは、それはありがたいことじゃろうと思うので、それは誰が見ても、完璧なのはできんのじゃけど、そういう一つ視点を変えて対応してほしい。これは、予算がどうこうというんじゃなしに、場所は動かしてもええという柔軟な姿勢が見えるんですけど、学校側にはある程度呼びかけというんか、ヒアリングというんか、そういう対応はやっとなですか。

○大岩危機管理課長 まず最初の防犯カメラの設置についての取りかかりですが、昨年の10月から11月ぐらいだったんですけど、まずは犯罪の多いところということで考えておりました。多いところというのは、主なJRの駅でございます。そうして、当初予算に3カ所上げさせていただいたんですけども、その後7月の倉敷の女児事件とかありまして、その中で、今丸をつけているところは一応通学路関係だということで、実際警察の場所とかぶっております。その中で、通学路はこれだけ大体関係ありますよということで、あえて丸させていただいております。

学校のほうと協議したのかということですけども、その要望箇所と照らし合わせて、電気をいだけないかとか、そういったことは協議させていただいております。校庭内にポールを立てられないかというようなことは相談させていただいております。

○尾川委員 先生に責任を持っていくというたら、また先生も嫌うから逃げるんじゃないけどね、通学路というたら、変更するんですよ、かなり。こっちが通学路と思うとったのが、通学路じゃなかったりする場合があります。だから、その辺はやはり大局的に見て、よう判断していくということをしてもらいたいという要望みたいなことは言いとうはないんですけど、それだけです。

○大岩危機管理課長 学校関係の御意見は、交通安全対策等協議会の中でも防犯カメラのことにつきまして話し合いしておりますので、そちらのほうは意見を聞きながら進めてまいりたいと考えております。

○山本（恒）委員 やはりさっきから言われよるように、大体決まって台数がまとまって出てきとんじゃろうけど、3人で回ったか4人で回ったんか、もう一遍帰ってきてからしとんじゃろうけど、誰が見たってここはちょっとおかしいからこっちへというたりするぐらいな変更ぐらいはしたほうがえんじゃねえん。来年買うから、次一番に行きやあええというのもあるんじゃないけど、かたい話ばあしよったら、聞きよったら、予算を通さんというてから言よんじゃから、そりゃあ通らなくてもしょうがねえけど、たまにやあ。まるつきり何もかも皆通るばあしよったつておえんのじゃろうから、そりゃあええけえど、そこらもある程度吟味して物を言うがほうがえんじゃねえん。

○田原主査 とにかく委員がいろいろ提案しているんですから、そのあたりをよく考えて、予算執行には頑張っていただきたいということを主査からもお願いをしておきます。

19ページ、よろしいでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次は、29ページ、消防費、いかがでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようでしたら、次へ進まさせていただきます。

35ページ、諸支出金、普通財産取得費、公有財産購入費、これは先ほど意見がありました。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

採決はありませんので、先ほど出た意見を総括の予算決算審査委員会に報告させていただきます。

す。そこで補正すべきことは、またお願いしたいと思います。

休憩します。

午後1時54分 休憩

午後2時04分 再開

○田原主査 それでは、予算決算審査委員会総務産業分科会を再開いたします。

\*\*\*\*\* 議案第69号の審査（まりづくり部関係） \*\*\*\*\*

まず、5ページ、債務負担行為の補正について議題といたします。

○山本（恒）委員 路線バスの車両リース料の5, 123万4, 000円、これは車両を購入す  
んかな。

○下山まち営業課長 リースでございますので、購入じゃなしに、借りるというふうに考えてい  
ただければよろしいかと思います。

○山本（恒）委員 ほんなら5年間というたら、1年で1, 000万円ぐらいかな。

○下山まち営業課長 リースのお話もございますが、公共交通について全般的な御説明をしてい  
かないと全体の説明ができないと考えるので、皆様に今考えております資料を配付させていた  
だきたいと思っております。

今配付させていただいた路線バスの案でございますが、今回債務負担並びに補正にも上げさせ  
ていただいておりますので、それに関連いたしますので、全体を含めまして御説明をさせていた  
だきたいと思っております。

今お手元にある、色をつけておりますが、これはあくまでも決定ではございませんが、今執行  
部といたしまして考えておりますバスの路線図でございます。今回は、南北線ということで、吉  
永から伊里駅を經由して穂浪のマルナカまで行くルートを新案で今回補正で上げさせていただ  
いておりますが、今後今お示ししております路線を新たに設ける部分、それから幹線のルートであ  
ります南北線、東西線、日生線というものを今後拡充させていただきたいと考えております。

今回、バスでございますが、リース料として9台上げさせていただいております。今現在、上  
げさせていただいております幹線と支線を合わせて試算いたしますと、21台必要になってくる  
というふうに考えております。これは、あくまでもリース車でございまして、現在バスで動かし  
ております通学用の分、一番多いのが伊里地区でございますが、伊里地区の小学生が学校へ行く  
のに、多いような分は、こういうワンボックスタイプの車ではなくて、その時間帯には20人程  
度の今走っておりますバスを走らせるという複合になってくるかと思っております。

議会でも、市長のほうで答弁されていると思っておりますが、公設民営という方法をとらせていただ  
く予定でございまして、今回補正で上げさせていただいております燃料費等は、この私どもがリ  
ースした車の燃料費等を計上させていただいております。修理代も、その分でございます。それ  
から、私どものほうで車の任意保険料は負担させていただきまして、バス事業者等は人の配置を  
お願いすると。ドライバーの人件費等も含めた、管理費を含めたという部分で運営をさせていた  
だく予定でおります。

これとは若干別になりますが、交通空白地帯があると。これは、通常であれば、都市部であれば300メートルとか500メートルという計算もするわけでございますが、備前市の場合は、山口市が行っておりますグループタクシーと申しますか、タクシーを使われる方にタクシーの助成券を出すと、そういう方式。タクシーで最寄りの駅並びにバス停まで行っていただくと。今考えておりますのは、バス停より1キロ以上遠いところという方にそういうのを発行して、バスに乗っていただく、電車に乗っていただく。なぜこういう方式をとるかというのは、あくまでもタクシー事業者も参入していただくといえますか、うまく利用していただくという部分も含めての検討を考えております。こういう全体的な部分を公共交通会議に諮りまして、やっていこうというふうに現在考えております。

費用でございますが、今全体の費用といたしましては2億円程度はかかるだろうと、これをあくまでも全部やったという部分での話でございます。ただ、これはあくまでも案でございます、実際やっていくに当たって、効率よく走らせる、それから利用状況も考えながら今後検討していくというふうに考えております。

何度も言いますが、まだこれが決定ではございません。公共交通会議に諮り、事業者等も含めて調整を図りながら進めていくということでございます。

今回の補正に関しましては、南北線という吉永から穂浪へ行くという部分をあくまでも実証実験をしてみたいと思います。

簡単でございますが、こういう部分でのバス路線の編成を考えておりますので、御審議をよろしくお願ひしたいと思います。

**○山本（恒）委員** これを見る限り、今までにないところも通るようになるらしいんですけど、現在は年間七千四、五百万円といったら、3倍ぐらいふえるのかな。

**○下山まち営業課長** 今は、補助金といたしまして7、200万円を当初予算で組んでおります。それから、今回補正をさせていただいて審議をしていただく部分がございまして、総額、これはガソリン代等も含めた、委託費も含めた分でございます、2億円ということになれば、約3倍ということになると思います。ただ、収入に関しましても、今よりも当然上がると考えておりますので、その辺はまだ実際どのくらいというのは確かな数字は言えないと思います。

**○尾川委員** これを初めて見せてもろうたんですけど、基幹路線が3本、支線、それぞれどういう目的でこの線を運行しようという計画があるかということをお教えしてもらわんと、これ見たら、もう議員に渡ったら市民に出たんと一緒ですから、それが一人歩きするわけです。そうしたときに、どういう目的で何々線何々線というんがあるんかと。比較するというか、こういう計画を立てられたのに根拠があると思うんです、それを何らかの形で見せてほしいんですけど。

**○下山まち営業課長** まず、市長が議会でも申しましたように、JR赤穂線と山陽本線が並行して走っておりますが、それを結ぼうという、まず1つのコンセプトがございまして。それから、基幹路線のうち、日生線は今までも宇野バスが走っております。やはり主要道路というものがございまして。それは、拡充していくと。それから、新たに設けさせていただく部分は、今まで空白

地帯で、非常に交通弱者が困っていたと。極端に申しますと、西鶴山等は、今まで全く走っておりませんでした。議員等からも今回の質問にもございまして、そういう部分も補完するという意味がございまして。一つ一つのなぜこれを設けたかというのはあるわけですが、ここで全てお知らせするというのは非常に厳しいと思いますので、御理解賜りたいと思います。

**○掛谷委員** これをやると2億円余りかかると。優先順位は一体どうなるのか。まずは、ルートバス、吉永、これは緑の伊里駅ですか、それからマルナカぐらいまで来ますね、これが1つ。それからもう一つは、ピンクの太い、これが伊部駅から備前病院から三石と。それから、ブルーのものでしょ、この3つ。環状線というのもこれへ入るんでしょうけれども、まずはこれをやるんですかね。あとは、既存のものを動かして、徐々に徐々にこれに全部近づけていくというふうな計画でしょうか、その辺のところがよくわからないんですけれど。

**○下山まち営業課長** 委員おっしゃるように、まず基幹路線を拡充していくということで、緑色、ピンク色、ブルー色、この本数をふやすというのを考えております。それから、今既存である東鶴山線が一番支線でございますが、そういうところも手を入れていきます。それから、新設になる部分、これはあくまでも停留所等も考えていかないとはいけませんので、若干時間がかかるのかなというふうに考えております。

もう一点が、これでいきますと、香登熊山学び線でございますが、こういう市外を走る部分は、各地元の公共交通会議に諮っていただきまして、了解をいただかないとだめだというのがございまして、若干時間がかかるのかなということで、まず一番には、今走っている本線、支線も含めまして、それを拡充していくと。それから、車を新たに小さくしていくと。よく言われますが、空気を運んでいるんじゃないかということがないように、コスト的にも安くなるような、それから車にしても電気のバンタイプの分ですね。というのが、日産から新たに出たということで、そういうのも、環境も含めた採用をさせていただきたいというふうに考えております。

**○掛谷委員** おぼろげにわかりました。ただ、もう少しわかりやすく、行程表じゃないですけど、計画案を何かまとめてもらったありがたいというのが1つと、当面は当初予算の7,200万円と今回計上されている車両リースですか、297万6,000円と新設の予定のバス路線414万円、この辺がプラスアルファになるわけですか。

**○下山まち営業課長** 予算書、歳出の19ページ、地域振興費の中に需用費でございます。燃料費、修繕料が新たにこのバス路線に入っております。それから、使用料及び賃借料297万6,000円が入っております。それから、負担金補助及び交付金の路線バス運行補助金414万8,000円が今回新たに発生するものでございます。

**○田原主査** 総務産業委員長として申し上げます。

できれば、これは予算が出る前段の委員会であらう資料を出して説明をしていただいて、しる後に予算計上をしていただきたいと思います。

**○下山まち営業課長** できるだけ早目にさせていただこうと。前回の委員会でも掛谷委員からいつ出せるんらという御質問があったと思います。年度末までにはというお答えをしたと考え

ておりますが、あの時点でもこれを一生懸命考えておった段階で、金額的に非常にシビアな問題でございまして、なかなか出せなかったということで、予算も本当の最終ぎりぎりまで待っていただいたというのが現状でございまして、まことに失礼な対応になったかと思いますが、その辺御理解を願えればと。今後は、できるだけ早目に御提示できるように頑張らせていただきたいと思います。

**○尾川委員** 先の話ですけど、この中で香登熊山学び線、ええ名前つけとんですけど、すばらしいと思うんですけど、ただちょっと気になるのが、これが今までの片上周匝間バス運行助成負担金というのとかぶつとると思うんですよ。そういうことでえんですか。そりゃあ、あんたの考えでねえんじゃろうけど、説明してください。

**○下山まち営業課長** 実は、公表はまだ差し控えたいと思っておったわけですが、片上沿線の分は脱退したいという希望がございまして、今1市1町に申し入れをさせていただいております。まだ了解を得ておりませんので、その辺も考えながら、今後検討をしていかなければならないのかなど。あくまでも、二重投資にならないような方策を考えてはおります。

**○尾川委員** ちなみに、今片上・周匝間のバス、5万3,000円とふえとんですけど、今1年間でどのくらいの金額を負担しとんのですか。

**○下山まち営業課長** 今までは、年間410万円負担をしておりました。今回5万3,000円の増額でございまして、これは4月から9月までの分の約半年分の消費税アップによる3%分のアップでございまして、今回補正をさせていただきまして、全体では415万3,000円になります。今までは、410万円を支払いしておりました。

**○田原主査** ほかにございせんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようですので、次へ進めさせていただきます。

11ページ、国庫負担金、災害復旧費国庫負担金でありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次、13ページ、県支出金、よろしいですな。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

17ページ、繰越金、よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

歳入のほうはよろしいですね。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

じゃあ、歳出に入ります。

19ページの企画費、委託料、よろしいか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次、25ページ、簡易水道費と農林水産業費。

**○山本（恒）委員** 公有財産購入の八木山の農道というたら、どこを増設するん。

○丸尾産業振興課長 八木山農道の用地の場所でございますが、これは延原産業がある前の道路でございます。

○山本（恒）委員 ほんなら国道2号からおりてきて橋を渡る、そのまだ工場の駐車場の上のところ。

○丸尾産業振興課長 2号からおりまして、工場の中というんですか、その一部になるんですが、場所は、そこになります。ですから、今の駐車場の手前の位置になります。

○山本（恒）委員 ほんなら、向こうへ、環境センターへずっと行くほうかな。

○丸尾産業振興課長 はい、そのとおりでございます。

○田原主査 次へ進んでよろしいか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

27ページ、商工費に入ります。

○川崎副主査 観光費のトイレ設置費用1,000万円、2カ所ということで、1カ所は日生病院あたり、たしかどっかで見たような気がするんです。もう一カ所は、この完成する橋から離れた現寺湾の入り口、船着き場付近の設置だというふうに聞いた、図面を見たような覚えがあるんです。なぜそこなのかなと。観光客はそれなりに船で来るのか、よくわかりませんが、橋ができてれば、当然自家用車また大型バスなりで駐車場に入ってきて、その周辺が最も公共トイレとしては必要になるんであって、現寺湾の船着き場は今以上には必要性がなくなるんじゃないかなと心配しとんです。なぜ今度確保した3,000万円の架橋大橋ルート沿いの尾根がいいのか、すぐ駐車場の横がいいのかよくわかりませんが、やはり頭島と本土を結ぶルート上につくっていただくほうが、特に大型バス、観光バスなんかで来た方がトイレを利用する場合には、そういったルート沿いがいいんじゃないかなと。今さら現寺湾という必要性を全然感じないんですが、いかがでしょうか。

○星尾日生総合支所長 今回1,000万円いただいとるのは、御存じのとおり2カ所で、現寺湾のところは、現在観光トイレがございます。30年以上たった、古いくみ取り式、そこをやりかえるという形をお願いするものであります。こちらも、公共栈橋もございますし、また船から来られる方もまだ今後おられると思いますので、そこの建てかえということで1カ所と、今の大橋の手前、今委員おっしゃったところと、2カ所を考えております。

○川崎副主査 入ってくる方は、事前にトイレを済ませてくださいということで、病院近くどこか、駅を利用する観光客含めて、また小豆島行きも、2台以上くると結構公共トイレが満員で、女性の方は本当に大変な状況をよく見るわけです。それを鑑みますと、本土側はそれでいいんだろうと、利用度が高まるんだろうというのはわかるんですけど、いざ日生大橋を渡りますと、基本的に今言った現寺湾の辺に古い公共トイレがあるだけで、あとは民間トイレしか今のところないんじゃないですか。となると、3,000万円で買った、結構広い駐車場あたりこそ、今緊急性があって、この10月2日か5日か忘れましたが、完成式やって、工事車両を含めて頻繁に使われるということになれば、なぜそのルートにつくらずに、もともと古いのがあったらそこに



つくるという発想はわからんことないですけど、今補正で緊急性という意味では、ルート沿いにつくって、より早く今の定期船から頭島へ行って、そこからウオーキングルート、いろんな形で鹿久居島のやはりルート沿いこそ最も緊急性のある観光トイレではというふうに考えとんです。それは、来年4月の完成式までには、また別口で観光トイレを考えているのでしょうか。

**○星尾日生総合支所長** 頭島寄りのところには、現在グラウンドゴルフ場の観光トイレがございます。そこを外からでも十分利用できますし、今後人の流れからこういった場所がいいかというのはまた選定させていただいて、そちらのルートにつきましては、今後また考えていきたいとは思っております。

**○川崎副主査** 頭島の方は頭島でいいんじゃないけど、実際に300メートル渡って、鹿久居島の中でも陸路も結構な距離ありますよね、米子湾に出るまでに。その間に一カ所もトイレがないわけでしょ。やはり駐車場を確保して、3,000万円のお金をかけながら、そこに駐車していただく目的、そこで観光なり国立公園である鹿久居島を散策いただくためには、どうしても駐車場近くという必要性が一番緊急性があると思うんです。それを下げて、あえて現寺湾の入り口の古い、1人か2人しか入れない、ぼろぼろのトイレを改修するということはわかりますよ。だけど、緊急性があるのかといたら、ミカン狩りのときに少し緊急性がある以外は、鹿久居島に住んでいる方は自宅にトイレがあるわけだから、全然必要ないわけでしょう。となると、やはり本ルート沿いという必要性が最も緊急性があるということを、この視点も何か抜けた緊急観光トイレになっていると思うんです。視点が余りにも食い違うんじゃないですかね、我々と。

**○星尾日生総合支所長** 今の現寺湾のところですけど、今台風とか高潮になると、便槽がつまっていたりということもあまして、緊急性ではないですけど、その辺も含めて、そこを改修させていただきたいと思っております。

また、架橋が完成しても船で来られる方も十分おられると思いますし、鹿久居島の船からの玄関口といいましようか、唯一公共棧橋もございますので、そちらのほうを改修させていただきたいと思っております。

**○川崎副主査** 私、ミカン狩り以外には必要ないと考えとんですよ、海岸線は。確かに現寺湾沿いのミカン狩りもありますけど、尾根を越える北側にも結構、個人的にどういう方がよくわかりませんが、何せ四、五軒、ミカン狩りだとかやっている方がおられるじゃないですか。そういうことを考えると、海岸までおりていかないとトイレへ行けないんじゃないかと、車を置く周辺でまほろばに行く方も出てくるだろうし、まほろばまでというたら3.5キロあるんですから。今は車ではいけないですね、よく考えたら。そういうことを考えると、やはり緊急性でやるなら、先にこの観光トイレという、観光費でとるなら、観光客が最も使うであろう場所にやっていただいて、既存の施設の修繕は、それなりの予算で来年度でも構わないんじゃないかという気がするわけです。この10月に式典をやって、どんどん観光客、またマスコミの注目が集まる中で、完成前を見たいという方が、一々500メートルか1キロぐらいおりていかないとトイレを使えないというのは問題ですよ。この半年間、来年の完成式に向けては、やはり20年近くかかった日

生大橋、頭島大橋を渡るルートに注目が集まるんですから。観光客のためでしょう。地元のためじゃないでしょう。だったら、観光客が最も有効利用できる設置場所を再検討してください、これも。さっきの防犯カメラと一緒にですよ。全く本気で防犯を考えている設置カメラなんかと、寒河に必要もないところへつけるようなやり方をしているという、行政のやり方たるんですよ、はっきり言うて。反論あったら、言ってください。

私、そういう場所を変えないんだったら、はっきり反対しますよ。観光トイレじゃないですよ。単なる修繕ですよ、今まであるものの。500万円もかけるようなことじゃないでしょう。

○星尾日生総合支所長 川崎委員の言うことはよくわかります。現時点で、今水道施設がそちらの今の現寺湾の道路沿いのほうには入っておりませんので、それが完備でき次第、そちらのほうの観光トイレも考えていきたいと思います。

○川崎副主査 水道のやりかえ、本土からのやりかえができないのはわかります。だったら、今既存の鹿久居島でやっている簡易水道の一番高い水圧がかかる場所、利用してないんですかね、あれ。

〔「しとる」と呼ぶ者あり〕

しているのであれば、そっちからでも、仮に埋めなくても、そういうトイレが使えるようにやって、本土から来れば、それに正式に接続すると。やはりそれぐらい考えての観光トイレにしていただきたいと思うんです。水道が来ないからって、だったら簡易型の仮トイレをつくってもいいじゃないですか。トイレだけは、我慢できなかつたら、女性はどうするんですか。渡っている途中で一杯飲んだりして、トイレがねえトイレがねえと言ったときに。今回日生大橋を渡ったら、全部頭島へ行くわけじゃないでしょう。鹿久居島が本命の大きな島ですから、そこにいかに観光客がおりていただくかというのも、重要な日生大橋の設置の目的でしょう。それを無視した観光トイレとしか言えませんよ、これ。お金を使うなら、やはり観光客がさすがトイレをつくっているというような状況で完成式を迎えていただきたいと思います。

○田原主査 観光施設としてのトイレをつくることに賛成はするけども、場所については不適切だと、こういう指摘だと思うんですが、いかがですか。

部長、答える、あくまでも計画どおり押し通すつもり。

○高橋まちづくり部長 計画どおり設置させていただきたいと思います。といいますのが、先ほども言いました、高潮のとき、あるいは台風時期に便槽の中へ海水が入ってくると、そういうふうなものを公共水域、公共海面のほうへ一体くみ出しているという状況を考えたときに、やはり公共棧橋、これから何ぼか船の出入りもあると思います。それから、本土側のほうから旧学校跡のほうへ尋ねていく人もあるかもわかりません。そうした意味で、ある程度今の位置のトイレを改修させていただきたいということで、今後につきましては、その沿線沿いで適切などころがあれば、順次公共トイレとしての整備も考えていきたいと思いますので、今回の分については、そういう形でぜひとも実施させていただきたいと、このように考えております。

○川崎副主査 私、それ30年もある古いトイレというのはわかっております、何度も行ってい

ますし。だったら、何で当初予算につけないんですか。観光トイレで緊急と言うんだったら、私はあくまでも、この完成間近な橋に合わせての観光トイレだという認識であって、既存のトイレ修繕というのは当初予算に出して、500万円もかける必要があるんですか。500万円かどうかわかりませんが、2カ所で1,000万円ということで、2で割って500万円ですけど。単なる修繕、改善だけなら、当初予算に出して、修繕関係のトイレとしてやっていただきたい。観光トイレじゃないですよ、実質。だったら、今までなぜ放置したんですか、そんな汚いトイレを。そういう問題にもなるでしょう。そういう基本的な視点が何か違ってきますよ、補正予算のつけ方の視点というか。相当同僚議員から、やはりこういう補正ではなくて、なぜ当初から出さないかと。行政の継続性からいったら、明らかに古くなって不自由しているというのはわかることが積み重なって何十年来て、当初予算に組まずに、何でこの9月の補正予算で組むかと。笑われますよ、こんな予算の組み方をしているのは。やはり予期せぬ時期が目の前へ来て、どうしても補正で組みたいと、観光客がどうしても必要としているということで予算認めてくれということじゃないんですか。

**○高橋まちづくり部長** 確かに委員言われるように、当初からこの修繕も含めて上げとくべきだったかも知れません。それは、御指摘のとおりだと思います。来年の4月16日には供用開始という状況の中で、我々もある程度いろんな状況を見ながら、既存のトイレの修繕も、こういう状況よりは、やはり供用開始に合わせて早急に必要があるだろうということで、補正計上をさせていただきます。

2カ所で1,000万円ということですが、極力最低限でできるような形で、こちらのほうのトイレについては考えていきたいと思っておりますので、何とぞ御理解を賜りたいと思っております。

**○尾川委員** 商工費の企業訪問等の際に持参する記念品等4,000円の増と。金額も金額ですけど、こういう記念品等というのは、別に問題はないですか。記念品だからええんか、お菓子だったらいけんのか、ようわからんのですが、そのあたりちょっと。4,000円の金額が多い少ないは別として、どんなんでしょうか、今の時代。

**○下山まち営業課長** 記念品がどうかという御意見でございますが、新たにブランド推進係というものができまして、備前市のブランドということで、行くときに、こういうものだというふうにしたと今回考えまして、計上させていただきました。

**○尾川委員** 要するに、監査の対象にはならんという解釈でえんですか。

**○下山まち営業課長** 私どもは、監査の対象にはならないと、あくまでも備前市をPRするものというふうを考えております。

**○尾川委員** 次に、イオンモール開業に合わせてイベント、それからアンテナショップで開催するイベントの参加費用ということで補正予算が上がったんですが、内容はどういうことを予定されとんのですか。

**○下山まち営業課長** まず1点目の旅費でございますが、これは東京に新しくできるアンテナショップに行ってPRをしようというふうを考えておるわけでございますが、今考えておりますの

は、備前市単独ではなくて、赤磐市、和気町と、昔でいう東備というところで一緒になってPRをしようということで、その出張費用を計上させていただいております。

それから、需用費のイベント材料だとかということでございますが、これはイオンモールがきますと非常に集客率があるということで、イオンの中でイベントをしたいと、備前市をPRしたいというふうに計画して、イオンのほうと交渉しておったわけでございますが、まだできていないということでオーケーが出ないということで、今回はオープンに合わせて、若干時期はずれますが、岡山駅の中でやろうと。車が非常に込むという情報もあり、電車での来客も多いだろうということで、そこで備前市のPRをさせていただきたいというふうに計画しております。

**○尾川委員** PRの内容はどういうことを考えられとんですか。

**○下山まち営業課長** 遠くから来られる方もおられるということで、まず核になりますのは、誘客が見込めるカキオコを出店していただきたいというふうに考えております。それから、備前市の一緒になって出店していただく企業を募集させていただきたいというふうに考えております。

**○尾川委員** 東京のPRが、備前市、赤磐市、和気町と一緒にってという説明がありました。ちょっと気になるのが、先ほど質問しました公共交通の問題で、周匝・片上間のバスの脱退という申し入れをしておるという中で、こういうことでえんかなというのが1つ疑問に思うんです。私は、自説として、あの線は昔から高瀬舟が通って、片上鉄道が通って、いろんな輸送手段の一つとして歴史があるから、何とか存続していかんやあいかんという考え方でおったんです。吉井川を制するものが岡山県の東を制するというぐらいで、昔は水上輸送で、あとは片上鉄道で輸送して、今かなり地域的に交流が図られてきとるということで、周匝・片上間のバスは非常に乗客が少ないということですけど、ある面そういうことで交流というか、連携というのをとりながら、片方ではそういう連携を崩していくということが現実に起こってきとんで、私のひがみじゃないですけど、個人的な意見ですけど、そのあたりをよく調整してもらって、総務のときも申し上げたんですけど、中核都市ということで、恐らく備前、和気、赤磐、瀬戸内は、岡山エリアの範疇に入ると思うんです。だから、いろんな面でうまい運営をやってもらわんと、備前市はもともと市ですから、リーダーシップを発揮して進めていただきたいということで、そういう面での考え方をお伝えしたんですけど、何かありましたら。

**○下山まち営業課長** ありがとうございます。

まず、観光という面で申しますと、やはり今単独の市町村でやっているというよりも、周りの隣接の市町村が協力しながらやはり誘客をしていかないといけない時代にはなってきていると。あくまでも、観光は単独での競争じゃなくてということで、今回経費を安くするという意味合いも兼ねまして、単独ではなく、2市1町でPRに参ります。今委員御指摘のように、ある部分離れて、ある部分是一緒になってという部分、非常に厳しい部分あるかと思えます。ただ、観光面に関しましては非常にいい関係が整っておるというのが現状でございますが、これに隣接する瀬戸内市も入っていただければ非常に効果的だなというふうに私どもは考えております。ただ、今言われておるように、吉井川沿線、片上鉄道が通った沿線の分が、まず一度柵原、今は美咲

町でございますが、脱退したという経緯もございます。脱退は申し入れておりますが、まだオーケーをいただけていないという状況でございますので、そういう部分も、市長もその辺は当然検討しているというふうには考えておりますので、今後はその辺も留意しながら話は進めていきたいというふうに担当者は思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

**○尾川委員** ですから、そういう交流人口、地域の活性化、やはり持ちつ持たれつの面があるんで、備前市がどうなって発展してきたかということをやはり認識しながら対応してほしいということです。

**○下山まち営業課長** 今御指摘ありましたことを重々考えながらやっていきたいと思ひます。

**○掛谷委員** 繰出金の企業用用地の造成事業の特別会計の9, 300万円、これについてお伺ひをもう一回したいと思ひます。

私が散歩をしておりますところは、まだ稲が十分ではありませんが、稲をつくっております。これが今回通りましたら、恐らく早速造成に入っていくんだらうと思ひます。お聞きしたいのは、あそこはちょっと低いわけです。この用地の造成事業というものは、土地を買うものと造成するお金と分けられると思うんです。それを合わせて9, 300万円だと思ひんですけど、それはどうなのかということと、これが承認された場合は、いつからスタートして、いつごろ完成なのか、その点についてちょっとお伺ひしたい。

**○下山まち営業課長** 9, 300万円でございますが、これが土地造成費用というものではございません。全体経費といたしましては、もっと大きな金額で、今回特別会計のほうで補正予算計上させていただいております。全体の分で市債を借りるようになっておまして、その分の足らず分を一般会計から繰り入れをいただく金額が9, 300万円だという認識で、詳細につきましては、後から企業用の造成事業の特別会計の補正予算を審議していただくと思ひますので、そちらで御説明させていただければと思ひますが、いかがでしょうか。

**○掛谷委員** それはわかりました。

これが仮に承認されたら、どういうスケジュールになります、タイムスケジュールは。

**○下山まち営業課長** 前回地図をお示ししまして御説明したとおりでございますが、今回取得費ということで議案を上げさせていただいております。その承認をいただければ、すぐにはできなくて、農業委員会に今回諮らせていただいております。農業委員会から承認をいただけるのが今月末か10月になってからだろうというふうに考えております。それで初めて所有権移転ができるということになります。それから契約ということになっていこうかと思ひます。ただし、農地転用が要らない土地は、すぐにでも契約できると思ひます。それから、農地転用の手続終わり次第、契約ができ次第、個々に契約をさせていただきまして、遅くとも12月中には登記が終了し、代金のほうを地権者の方にお支払いするという計画でおります。それから、今回補正のほうへ上げさせていただいている造成の詳細設計というものがございまして、そういう部分に関しましては、了承を得てから入札、設計、それから調査に入ります。それをもとに開発申請等を行ってまいります。そのオーケーが出るのが約3カ月ぐらいかかるということで、今までの

状況でございますので、来年の5月、6月ぐらいにはオーケーが出るだろうと。それから造成に入っていくという格好になります。だから、造成の費用は来年の当初に上げさせていただき予定で、現在進めております。造成ができ次第、でき次第と申しますか、何度も申しますが、今回オーダーメイド方式ということになっておりますので、そのころまでに進出する企業の誘致を決めたいと。それによって、1ヘクでいいのか、1.5ヘクになるのか、2ヘクになるのか、その辺協議しながら、それで造成をして売却というふうに、できるだけ早くなるように努力していこうという決意のもと、頑張っております。

**○掛谷委員** そうなりましたら、オーダーメイド企業が早く参入すれば、1年後ぐらいにはひょっとしたら決まるというか、企業誘致ができる可能性はあるというふうな、1年後はちょっと無理かな、1年半後ぐらい、そんな感じですか。

**○下山まち営業課長** できるだけ早く決めるように頑張らせていただきたいと思います。

**○山本（成）委員** 土木費、住宅費ですけど、大内団地内の特に老朽化の進んだ一部住宅とありますが、この一部住宅はどのあたりを指していらっしゃるのか、細かく教えていただきたい。

**○下山まち営業課長** 今回、測量設計委託料として807万8,000円のことでございますが、まず、今回させていただこうというのは、大内団地0号棟から5号棟までを考えております。と申しますのが、0号棟というのは20年ほど前から政策空き家ということで、入居募集をしておりません。それによりまして、老朽化も進んで、非常に危ない、景観上もよくないということで、今回撤去を考えております。ただ、0号棟から5号棟まで、まだ入居中という方も10戸ございます。その方に移っていただかないといけませんので、その移転先の住宅の改修工事と、その設計委託料というのを合わせて行います。内訳といたしましては、撤去の設計委託料を530万円ほど考えさせていただいております。残りが住宅の改修工事の設計委託料ということでございます。

**○川崎副主査** 先ほどの造成の関係ですけど、早く企業に来ていただければ結構ですけど、一方で河川関係の改修をしてほしいということで、何かいつも県の関係ですかね、それを運ぶ場所がないと、埋め戻しする。そういう意味では、結構広い土地なので、急ぐのは結構ですけど、できれば土木業者と連絡を取り合って、自主的に河川の泥が埋め立てには使えるかどうかよくわかりませんが、使えるような土質であれば、無料でどんどん入れさせるというのは最も経費がかからないんじゃないかなと、一石二鳥ではないかな、河川改修に。これだけ集中豪雨だなんだというて、やはり世間で今騒がれていますので、そういう埋め戻しする場所があれば、河川改修したいというのも、いろんな河川でそういう答弁を聞いている覚えがあるんです。どんなんでしょうか。ここは独自に埋め立てをして、河川改修のそういうしゅんせつ土は別の場所へ確保できているから安心してよろしいのでしょうか。

**○下山まち営業課長** 造成の土代でございますが、当然私どもも安くなる方法を検討させていただいております。今委員おっしゃいますように、しゅんせつ残土を入れるという方法もあるかと思っております。備前市では、初めてここで企業用の用地を購入してやるということで、いろいろ勉強

させていただきました。その中で、よその自治体等にお聞きしますと、そういうしゅんせつ残土を入れた場合、土壌汚染と、何が入ってくるかわからないと。極端な話を申しますと、自然に持っておりますヒ素とか、そういうものも関係するかもしれません。そうした場合の、もし汚染をする可能性があるものを入れて、備前市として売るといえるのはいかがなものかと。わかりません。だから、調査をして全く安全だという認識のわかるものであれば、入れることは可能だと思います。そういう部分も含めまして、私ども研究させていただいております。今、実は県の工事でトンネル工事をやっているところがございまして、そこにいい土が出るという情報もいただいております。ただ、造成する時期と搬出する時期がやはり重ならないと、なかなかうまいこといかないというのもございますので、その辺も含めまして、今後少しでも企業のほうへ安く提供できるような方法は順次検討してまいります。

**○山本（恒）委員** 今の関連ですけど、普通の河川じゃったら今言われよることはねえんじゃねえん。流れよるもんが、でええ産業廃棄物をここへ捨てとって、へえで30年ほどそっから垂れ流しとると言うたら、そんなんあるかもわからんけど、普通じゃたらねえんじゃないん。

**○下山まち営業課長** なければいいんですけども、現にそういうことがあったという場所もあるというふうにお聞きしております、私どもやはりちょっと慎重になるというのがございますので、調査をして問題ないというようなものがあれば、当然時期的な部分も含めまして検討はしてまいります。それから、やはり何も調査をしなくて入れるというのは、非常にリスクも高くなりますので、それは避けたいというふうには考えております。

**○山本（恒）委員** そねえに言うたら、全然ずっと皆しゅんせつ土の捨て場がねえ、捨て場がねえと言うてから、ここ七、八年言うばあしよって、候補地は8カ所あります。3カ所に絞りますと言うけえ、ようよう備前市の土地になって、みんなしゅんせつをしてもらえんと思うて、夢見てとんが、課長みてえにいよったら、みんなびびってしまうわけよ。

**○高橋まちづくり部長** 建前はそういうことで、実情もよくわかります。特に、香登川につきましては、まだ暫定供用という形で、もう一年、90センチぐらい河床が下がっていくようなことになりますし、それから埋めることの行為によって、遊水地機能もなくなるというようなこともございます。そうした中で、極力河川残土も有効に活用したいという気持ちはございます。しかしながら、今回予定地は、そう盛り土がたくさん、厚く盛れないというようなこともございます。隣のミサワホームさんの埋め立ての高さを見ていただければわかりますけども、そんなに高く埋めるような予定にしております。ですから、河川しゅんせつ土が3メートルとか2メートルとか埋めるのであれば、下の部分1メートルぐらい可能かもわかりませんが、五、六十センチであれば、河川残土だけで埋めるというのは、造成からすれば、ちょっと厳しい部分はあると思います。いずれにしても、使えるものであれば有効に、工事費が安くなるように、なおかつ下流の香登川流域の方が安心できるような方法で、一石二鳥とは言いませぬけども、そういうような部分で考えてはいきたいと思っておりますけど、実情はそういうことであるということでの理解をお願いしたいと思います。

**○掛谷委員** しゅんせつ残土のことについて、環境で申しわけないですけど、これは全部環境に関することは岡山県が握っていると思うんです、しゅんせつしたものをどこそこに造成なり廃棄するなり。結局のところは、県がちゃんとした土壌の分析をして、検査をきちっとやって問題ないということは、備前市よりも岡山県にそういった権限があるんじゃないかなろうかと。県がいいよとなったら、地元でその造成地を、県も捨てる場所がないんで困りよんで、やってくれと言いはるわけですから、香登の造成地域にかかわらず、その問題について環境に関係するんでお答えができませんかもわかりませんが、その辺のところは県に権限があったものを県がオーケーになったら、市もいけるんじゃないかということの前々から思っているんですけど、どんなでしょう。

**○高橋まちづくり部長** ちょっと質問とかけ離れた回答になるかもわかりませんが、基本的には県がいいということは、法律的に問題が何もないというものだと思うんですよね。私どもが企業誘致である程度神経質になるというのは、先ほど担当課長が言いましたけども、そこで企業立地するということになれば、必ず土壌調査というのは今するんですよ、何が含まれているか。自然由来、もともとから存在するヒ素とか、そういうふうなものもございます。そういったものが、やはり売るということになると、市のほうの責任に最終的にはなるということもございますので、慎重にならざるを得ないという趣旨での話だったと思うんです。

それともう一つ、残土処理につきましては、いろんな方式があると思うんです。例えば、谷筋を埋めるのであれば、地権者にある程度埋めた状態でお返しをする、あるいは市として残土捨て場としてその土地を取得して、残土捨て場としての目的のもとにやっていくということになりますと、当然谷筋であれば、多分山にふくしていくような形になるんじゃないかと思うんです。そうなれば、そう問題視することもないんじゃないかなと思うんです。残土捨て場として、山にふくしていく、あるいは自然の形である程度整地をしながら自然な状況に返していくというのは、そういう有害な物質でない限り、特に問題は生じないと思いますので、その辺は臨機に対応しながら、処理をしたいというように考えております。

**○田原主査** この会は分科会でありますので、採決は行いませんが、不足するところ等につきましては、全体会議の中で皆さんから御意見もいただければと思っております。

以上で予算決算審査委員会の分科会を閉会いたしたいと思います。

午後3時11分 閉会